

最近の企業の資金需要・調達動向

資金需要は2000年7～9月期をピークに後退

本稿では、最近の企業の資金需要・調達構造について、財務省の「法人企業統計季報」をもとに分析を行った。この統計は、金融および保険業を除く資本金1,000万円以上の企業を対象として、資産、負債・資本の構成ならびに損益の状況等を四半期ごとに調査している。四半期ごとの企業活動を包括的にとらえることができるため、収益や設備投資、資金需要・調達構造の分析ツールとして活用されている。

まず、全産業の資金需要・調達構造の動向をグラフ化すると、**図表1**のように表される。左棒が企業の資金需要増減、右棒が資金調達増減、折れ線が資金需要の合計額を示している。

企業が営業活動を行うのに必要な資金需要（左棒）を、ここでは、①設備投資（有形固定資産増減＋減価償却費）、②投融資、③在庫投資、④手元流動性、⑤企業間信用とに分けた。設備投資、投融資を長期資金需要、在庫投資、手許流動性、企業間信用を短期資金需要と区分することができる。

全産業の資金需要は、2000年1～3月期以降、設備投資と投融資にけん引されて一旦は回復に向かっていた。しかし、00年7～9月期をピークに縮小に転じ、その後は足元まで5四半期連続で後退している。デフレ環境のもと、企業は設備投資、投融資に慎重な姿勢を示している外、手元流動性や企業間信用を圧縮しており、01年7～9月期からは在庫削減も資金需要の下押し要因となっている。

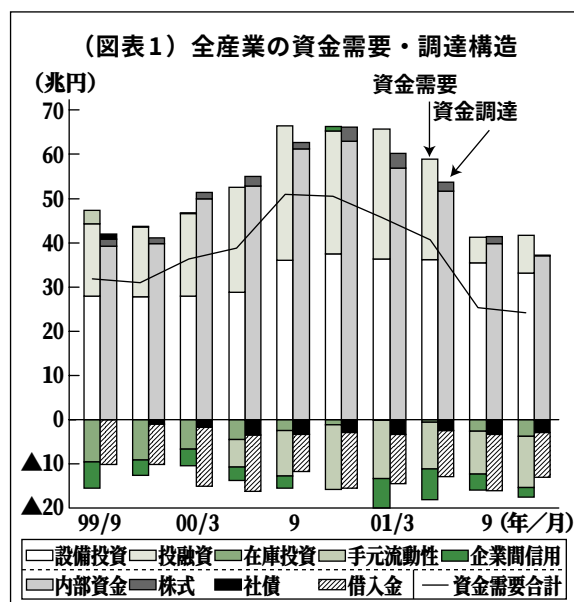
ただし、投融資には、ソフトウェア投資や内外関連会社向け投融資の外、時価会計の導入による有価証券の増加分と、短期有価証券（手元流動性）から固定資産への振替分が含まれてい

る。その影響から00年から01年にかけて一時的に増加している点には留意が必要である。

資金調達面では借入金や社債の純減が続く

一方、企業がどのような方法で資金を調達しているか（右棒）を見ると、①減価償却費や内部留保を中心とした内部資金、②株式、③社債、④金融機関からの借入金とに分けられる。

資金調達面では、01年1～3月期以降、収益悪化を反映して内部資金が縮小傾向にある。しかし、それを越えるテンポで資金需要が縮小していることから、内部資金が資金需要を上回る構造は一貫して続いている。この結果、借入金、社債といった外部資金調達は足元も引き続き純減している。

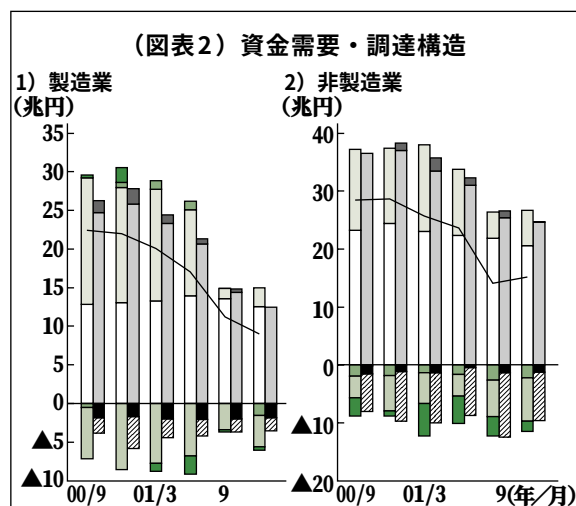


製造業、非製造業いずれも低調に推移

次に、製造業、非製造業に分けて分析してみよう。製造業の資金需要は、一段と低迷色を強

めている。業種別には、世界的な情報技術（IT）不況が大きく響いた電気機械業で資金需要の縮小が著しい。また、業績好調の自動車を含む輸送用機械業でも投資抑制を主因に低調に推移している。主要素材業種である化学工業、鉄鋼業、非鉄金属業について見ても、いずれも資金需要は縮小傾向にある。資金調達面では、収益悪化により内部資金の縮小が顕著であるにもかかわらず、資金需要の一段の低迷から、借入金、社債は純減が続いている。

非製造業の資金需要は、投融資の回復もあって足元では下げ止まっているものの、在庫投資、手元流動性、企業間信用の圧縮は継続しており、依然低調なまま推移している。一方、資金調達は、製造業と同様、内部資金より速いテンポで資金需要が縮小しているため、外部資金調達、特に借入金の大幅な削減が続いている（図表2）。



(資料) 財務省「法人企業統計季報」

建設、不動産、卸売業は引き続き低調

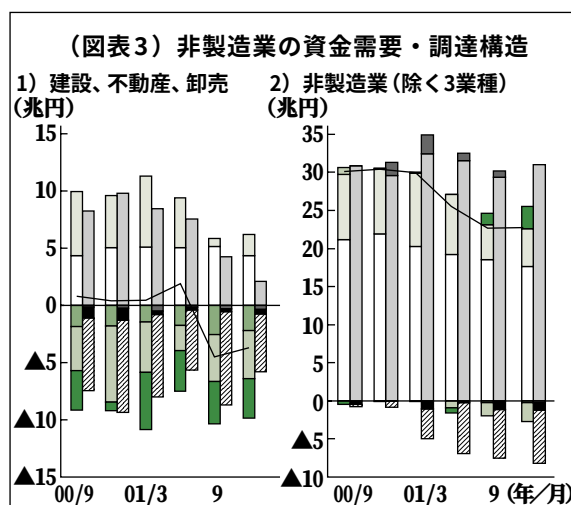
さらに、非製造業について、借入金依存度が高いといわれる建設業、不動産業、卸売業3業

種の資金需要・調達構造を見てみよう。01年7～9月期以降、在庫投資、手元流動性、企業間信用の削減幅が設備投資と投融資を上回っており、資金需要の合計額はマイナスとなっている。特に、建設業で設備投資、投融資の抑制と在庫投資、手元流動性の圧縮が顕著である外、卸売業で企業間信用の圧縮が目立っている。このため、借入金などの外部資金調達は、内部資金の急速な落ち込みにもかかわらず、建設業、卸売業を中心に大幅な削減が続いている。こうした動きは、企業の過剰債務削減努力として積極的に評価されるべきであろう。

また、その他非製造業(除く建設業、不動産業、卸売業3業種)で見ても、資金需要は設備投資、投融資の抑制を主因に停滞しており、借入金をはじめ外部資金調達の削減幅はむしろ拡大している(図表3)。

このように、企業の資金需要、借入金は全産業にわたって低迷が続いている。ただし、在庫調整の進展などから景気に下げ止まりの兆しが見られるなかで、そうした変化が今後の企業の資金需要に結びつくかどうか注目される。

(石原友香)



(資料) 財務省「法人企業統計季報」